

## 地球惑星科学委員会IUGG分科会IACS小委員会（第25期・第2回）議事要旨

1. 日時 令和3年10月4日（月）10:00~12:05
2. 会場 遠隔会議
3. 出席者 中村、東、青木、榎本、尾関、川村、杉浦、杉山、竹内、豊田
4. 議題

委員長から第25期第1回のIACS小委員会の議事要旨について説明があった後、以下の議題について報告及び議論を行った。

### （1）IACSの動向

資料2に基づき豊田委員から説明があった。報告の概要を以下に記す。

- ・ Early Career Scientists Award の選考があり、2名が受賞した。
- ・ 次回の Early Career Scientists Award の推薦締め切りは2023年2月1日。日本から是非推薦して欲しい。
- ・ Early Career Scientists Award の受賞対象分野はIACSのDivisionがカバーする全分野。これまで凍土はIAHSの所掌分野でありIACSのDivisionによってカバーされていなかったため、対象分野から外れていたが、Charles Fierz氏の提案により次回からIACSのStanding Groupがカバーする分野も受賞対象とすることになったため、凍土も受賞対象の分野となる。
- ・ 釜山で開催予定だったIACS-IAMAS-IAPSO Joint Assembly (BACO-21) がコロナ禍で中止になったため、代わりに7月19~23日にセミナーシリーズが開催された。Early Career Scientists Awardの受賞者2名も講演した。オンラインセミナーは下記で視聴可能。

<https://www.youtube.com/channel/UCP3bCxu-NIgIINmeoHgGxEQ/videos>

- ・ オンラインセミナーはCryolistでアナウンスされた直後に、豊田委員が日本雪氷学会のメーリングリスト及びホームページでアナウンスを行った。毎回50名程度の参加があり、全期間を通して、187名の参加があった。
- ・ 2021年9月6日及び9月13日にAnnual Business Meetingが実施された。MontrealのIUGG総会の際の決議事項の一つであった「Carbon Footprint削減」に積極的に取り組むための行動計画として、多大なCO2排出を伴う航空機による移動手段をできる限り削減する方針が確認された。今後、隔年で実施されるIUGG General AssemblyとIACS関連のJoint Assemblyを除いて基本的には会議はオンラインで実施することとなった。
- ・ 9月6日及び9月13日のAnnual Business Meetingでは、IACSのWorking GroupとStanding Groupの活動報告が行われた。詳細はウェブサイトを参照のこと。現在のWorking GroupはいずれもDivision II（氷河部門）であり、新たなWorking Groupの立ち上げが推奨されている。
- ・ 2023年にベルリンで開催されるIUGG総会の準備が始まった。2019年にモントルオールで開催されたIUGG総会とBACO-21で実施する予定だったセッションをベースに役員が調整中。北極に関するセッションの開催も検討されている。
- ・ 学会で優秀な発表を行った若手研究者に授与されるGraham Cogley Awardの対象となる会議について議論を行った。当初はBACO-21を受賞対象とする予定だったが、中止されたため、2022年8月にア

イスランドで開催予定の「Cryosphere 2022」が候補になっている。

- ・ IACSのpresidentがRegine Hock氏からLiss Andreassen氏に交代した。

(2) 日本学術会議及びIUGG分科会の動向

資料3に基づき委員長から説明があった。

(3) 日本雪氷学会積雪分類ワーキンググループの活動

・ 資料4に基づき尾関委員から説明があった。今後、日本語訳を確定した後、IACSの担当者 Charles Fierz氏にも連絡し、IACS及びUNESCOから正式な承認を得る必要がある。

・ 新国際分類と日本雪氷学会の伝統的分類の間はかなり差があるが、現状の日本語訳はそれらの中間的なものである。完全に国際分類にあわせてしまうべきという議論はなかったのか質問があった。尾崎委員から、議論はあったが、国内で積雪分類を広める際にあまり大きく変えてしまうと理解が得られない可能性があるため、伝統的な分類も一部残しながら変更することとなったとの回答があった。

(4) 今後のIACS小委員会の活動

- ・ 今後、積極的に Early Career Scientists Award への推薦を行うことが確認された。
- ・ 日本からIUGGやIACSの役員などを出すように努力することとなった。
- ・ 今後も従来通り、IACS小委員会は年1回の開催とするが、これ以外にも必要に応じて開催することが確認された。

(5) その他

なし。

<配布資料>

資料1：IACS小委員会（第25期・第1回）の議事要旨

資料2：IACSの動向

資料3：日本学術会議及びIUGG分科会の動向

資料4：日本雪氷学会積雪分類ワーキンググループの活動